

## 中学生の「税についての作文」

大川大木租税教育推進協議会 会長賞

### 「将来のために今」

大川市立大川桐英中学校

三年 陶 山 絆 夏

消費税をなくしてほしい。これは前の私が思っていたことだ。なぜなら元々は百円で買えるものが百十円になるからだ。実際その消費税は当たり前だと思っていたことに使われていた。学校の教科書、共同施設、警察官や医療費等。だが、当たり前だと思っていることだから分らないのだ。消費税がなくなった時を想像していないから。私には、曾祖父、祖父、祖母と三人年金をもらっている家族がいる。日本は、原則六十五歳から年金が支給される。年金とは、二十歳以上六十歳未満まで支払ってきた国民年金保険料から支給されるものだ。六十五歳を越している三人には年金がとて大切だ。曾祖父は九十を越え、体も自由には動かなく、仕事なんてできない。祖父も祖母も仕事をやめ、祖母は曾祖父の介護をしている。仕事をしていないく、普通はお金はもらえない。そのために年金が支給されるのだ。消費税がなくなり、年金が支給されなくなったら若い私たちには嬉しいことなのかもしれない。だが、働けない高齢者、病気で体が動かなくなった人たちはどうだろうか。生活するお金がなく、食料をかうお金がなく生きていけなくなるかもしれないのだ。それは将来の私にもあ

てはまる。私が歳をとり、仕事をやめた後、どう生活していけばいいのか分からない。そんな時に年金が支給されたらどうだろう。私は正直とつても嬉しい。支給されたことで生活していけるのだから。そう考えると税金はあつた方がいい。今の私はもう少し消費税を上げてもいいんじゃないかと心のすみで思っている。もちろん支払う金額が多くなるのは嫌だ。だが消費税が上がることでもっと豊かな日々が過ごせると思うからだ。今よりももっと充実した生活になると思う。そんな将来になるように今の私は、税のことをしっかり知り、それを生かしていきたいと考える。歳をとり、私が年金をもらうころになれば、今では分からない年金のありがたさを知ることができよう。そんな生活をおくるためにしっかりと税を払っていききたいと思う。自分、そして日本の将来のために今。

